

仕様書等の質問に対する回答

- 1 発注機関名
和歌山県農林水産部農業生産局鳥獣害対策課
- 2 業務の名称
令和8年度ニホンジカによる造林地被害及び生息状況調査委託業務

質 問	回 答
<p>・委託業務仕様書の「5 業務内容」に関して</p> <p>①「(2) シカの生息密度調査(糞塊密度調査)」について 調査対象となる各メッシュの位置図を提供いただくことは可能でしょうか。 また、各メッシュの調査ルートの図面を提供いただくことは可能でしょうか。</p> <p>②「(3) 造林地の被害調査」について 調査目的を設定したのち、発注者が調査対象となる造林地を選定するという認識でよろしいでしょうか。 参考に、和歌山県内の3～8年生の造林地の位置図を提供いただくことは可能でしょうか。</p> <p>③「(4) 造林に係るコストの予測」について 「(3) で調査対象とした成林前の造林地で防護柵が設置してある場合」とありますが、防護柵が設置されている造林地数または、割合について、現時点で想定されている内容があればご教示ください。 また、造林に係るコストの予測について、防護柵に関する費用に加え、地拵え、植栽、下刈りなどの作業費や苗木費についてもコストとして算出することを想定されていますか。</p>	<p>① 調査対象となるメッシュ位置・ルートについては、契約後に協議して決定します。</p> <p>② 発注者が調査対象(候補)となる3～8年生の造林地を30箇所程度指定します。その上で、発注者と受託者で協議を行い、調査目的を設定し、現地調査を行う20箇所を選定します。</p> <p>③ 大部分を防護柵が設置されている造林地で調査することを想定しています。 昨年度の調査実績では防護柵設置済の造林地が90%を占めています。 造林に係るコストの予測については、ご認識のとおりです。</p> <p>造林地の位置図等は、契約締結後の提供となりますが、参考資料として、令和7年度ニホンジカによる造林地被害及び生育状況調査業務報告書については、閲覧可能です。</p>